

生野義挙150年記念式典の様子



爽やかな秋晴れのもと、平成25年11月23日(土・祝)午後1時30分より生野義挙150年記念式典が開催されました。
写真は、会場となった朝来市生野メインホール。



にぎわう受付の様子。
当日は約450名の方が来場、会場内は満席、立ち見ができるほどの盛況ぶりでした。



式典第1部。
式辞を読み上げる多次市長。



来賓祝辞。
写真は、安福英則兵庫県会議員。



来賓祝辞。
写真は、能見勇八郎朝来市議会議長。



来賓として、多数の生野義拳志士関係者の出席をいただきました。



「天誅組の変」で知られる奈良県五條市からも出席をいただきました。
写真は、「維新の魁・天誅組 保存伝承・顕彰推進協議会」幹事長、内倉保氏。



記念式典に際し、これまで生野義拳の保存継承活動にご尽力されてこられた方々に、多次市長より感謝状が贈呈されました。



受章者は、写真左から高田区、山口区、生野1区老人会一寿会、武田和郎氏の3団体、1個人。



式典第2部。
生野小学校児童による児童劇「ふるさと生野物語」。

生野小学校では、今年度、生活科や総合的な学習の時間を通して、ふるさと学習をすすめています。
当日は、5年生が生野義挙について調べたことを劇にして発表し、劇中で4年生が石刀節(せっとうぶし)を、6年生が詩吟を披露しました。



鉦夫に扮し、石刀節(せっとうぶし)を披露する児童たち。

※石刀節とは生野銀山繁栄の時代、鉦夫が歌った仕事歌です。



生野代官所に澤卿が姉小路の名で書いた書状を手渡す場面。

写真右が生野代官所元締め手代に扮する児童。



志士達の登場、写真中央奥が澤卿。
天誅組破陣の知らせを聞き、議論を交わす場面。



南八郎決断の場面。
写真左が南八郎に扮する児童。



南八郎奉献額(市指定文化財)をバックに、詩吟を披露する児童たち。

「議論より 実を行へなまけ武士
国の大事を余所に見る馬鹿」



山口村から生野本陣に立ち返ることを決めた志士達
と農兵が対峙する場面。



児童劇最終場面。
出演者全員が登壇し「ふるさとの空」を合唱。
会場内は、万雷の拍手に包まれました。



「天誅組と生野の変」と題し、天誅組研究家、舟久保 藍氏(奈良県在住)に映像を交えながら、天誅組の紹介をしていただきました。
舟久保氏は、2つの変が「大和義挙・生野義挙」として顕彰されているのは、家を捨て、命を捨てても国を何とかしたいという志士たちの思いが、あまりにも個人・自己中心的な考えが広がっている現代において、ストレートに我々の心を打つからではないか、などと述べられました。



基調講演「奇兵隊と生野義挙」。
講師は山口県萩博物館特別学芸員、一坂太郎氏。
一坂氏は、結果として生野義挙は失敗に終わりますが、天誅組が起した大和義挙とあわせ、幕府に対しアタックしたことのインパクトは大きく、その後、武力で倒幕していく方向へ進んでいききっかけとなりました、などと述べ、生野義挙をわかりやすく講演いただきました。



式典終了後には、但陽会館において「生野義挙150年記念交流会」が志士関係者はじめ多数の参加のもと開催されました。